

令和5年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン (図画工作科)

	低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら、進んで表したり見たりする態度やつくりだす力 ・造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせる力 ・身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る力 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら、進んで表現したり鑑賞したりする態度やつくりだす力 ・材料などから豊かな発想をし、手や全体を十分に働かせ、表し方を工夫する力 ・身近にある作品などから、よさや面白さを感じとる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら、創造的に表現したり鑑賞したりする態度やつくりだす力 ・材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想をし、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫する力 ・親しみのある作品などから、よさや美しさを感じる力、それらを大切にしようとする態度

	低学年	中学年	高学年
児童の実態	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工に対して楽しく取り組める児童が多い。友達を褒める姿も見られる。 ・技能的な個人差や得手不得手はあるが、自分なりに、前向きに取り組むことができる。 ・技能的な経験の差や、個人の得手不得手は見られる。はさみやのりなどの使い方には個人差がある。 ・自分なりの造形活動を楽しむことができる。 	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく取り組める児童が多い。 ・一斉指導では、めあてや活動内容を把握しにくい場合がある。 ・友達と楽しんだり、作る喜びを感じたりしている姿が多く見られる。 ・自信のない言葉を自分から言ったりする姿が見られる。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工に対して前向きな気持ちで何にでも取り組んでみようとする意欲がある。 ・既習事項を学習に生かそうとしている。 ・友達との仲が深まり、良い面がある一方、馴れ合ってしまう面もある。 ・片づけを進んで行わない児童がいる。 ・忘れ物が多い特定の児童がいる。
	<p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工に対して楽しく取り組める児童が多い。友達を褒める姿も見られる。 ・技能的な個人差や得手不得手はあるが、自分なりに取り組んでみようとする前向きな姿勢が感じられる。 ・経験の個人差が見られる。 ・鑑賞として、絵のよさを認め、具体的に表現することができる児童が増えてきた。 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて学習に取り組んでいる。意欲をもって課題に取り組める児童が多い。 ・友達と楽しんだり作る喜びを感じたりしている姿が多く見られる。お互いを認め合う姿や発言がたくさんある。 	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・意欲をもって課題に取り組める児童が多い。 ・技能面に個人差がある。 ・材料の形、色、質感の特性を生かし、見通しをもって表現活動に生かすことができる。

		低学年	中学年	高学年
成果 (○) 課題 (●)	1年	<p>○身近にある素材を生かして造形活動を楽しむことができた。</p> <p>○絵の具の使い方や色の混ぜ方などを、段階を追って丁寧に学習することができた。</p> <p>○作った作品を用いて遊ぶなど造形活動を楽しんだり、友達作品を鑑賞し合ったりすることができた。</p> <p>●作品の進み具合に個人差があるので、個別指導を丁寧に行う。また、児童一人一人が活動のねらいや見通しをもって取り組めるように、参考作品や手順を明確に示すようにする。</p>	<p>○身近な素材を生かし、素材の特徴を味わいながら、造形活動を楽しんでいた。</p> <p>○題材に応じて道具を配置することができた。</p> <p>○表現活動の際、自分や友達の作品の違いやよさを認め合ったり、味わったりしながら取り組み、その後の鑑賞活動でも共感的・受容的な態度が養われた。</p> <p>●作品の進み具合の個人差が大きく開いた題材があった。個別に言葉かけをし、意欲をもって主体的に取り組めるように工夫していく。</p>	<p>○既習事項を生かして表現する題材を設定することで、今までの技能の振り返りと新たな発想による表現が見られる活動があった。</p> <p>○場の設定によって、児童が使いやすいように素材や道具を配置することができた。</p> <p>○発達段階に応じ、自己を表現するような題材に取り組むことで、互いのよさや違いを再認識できる場面ができた。</p> <p>●友達との関わり方によって個人の表現が狭まってしまう場面もみられた。提示するめあてや活動の中で指導し、自分なりに考えを深める態度を育みたい。</p> <p>●時間がかかる制作では進度差が大きくなることもあった。個に応じて細やかな支援に努める。</p>
	2年	<p>○紙などの身近な素材を中心に、のり・はさみなどの道具を安全に活用させることができた。</p> <p>○作品づくりを通して、互いのよさや違いに気づき、自分なりの工夫を加えて楽しく活動できた。</p> <p>○自分で表現した作品を基に、感じたことを伝え合う活動を通して、よさや面白さを感じ取ったり、次の自分の作品に生かしたりした。</p> <p>○段階的に想像力を広げられるよう、取り組むことができた。</p> <p>●技能習得の程度に個人差があり、技能を十分に習得する前に表現活動に入る児童が見受けられた。素材を試したり味わったりする時間を一層充実させ、児童が自信をもって表現活動に取り組めるよう支援する。</p>	<p>○身近な素材の特徴を生かしながら表現活動に取り組み、自分なりの工夫を考えてきまりを守りながら安全に活動できた。</p> <p>○道具の準備・片付けを含めて安全に取り扱うことができた。</p> <p>○自分や友達の作品を鑑賞し合ったり見合ったりして、互いのよさや違いを認め合う姿勢が育まれてきた。そのよさを自分の作品に生かす姿が多く見られた。</p> <p>●時間がかかる制作では、進度差が大きな問題となる。個々に応じて細やかなチェックと支援に努める。</p>	<p>○既習事項を総合的に働かせられるような題材を設定することで、個の表現が深められる機会ができた。</p> <p>○道具の取り扱いについて丁寧に指導したことで、大きなけがなく活動ができた。</p> <p>○発達段階に応じた題材の提示を工夫することで、児童個人が内省する機会をつくることができ、新しい発想のひらめきや思考の深まりが見られた。</p> <p>●表したいこと・ものが思いつかない、と活動が留まる児童が見られた。個人の経験や既習事項が生かされるように、導入時のワークシート活用や素材との出会い方・場の設定を充実させる。</p>